

芸術（美術）

【はじめに】

『人生で美術を学ぶ最後の1年』になります。授業のめあては、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を目的とした設定にします。これは、美術で学んだことが、社会に出たときにつながりを感じられ、生涯にわたり美術を愛好する人になって欲しいという思いからです。

『空間認知能力の完成期』を迎えます。三次元空間における空間認知能力は、思考やコミュニケーション、運動とも深く関係しています。様々な感覚情報が統合される造形活動でその能力を高めることは、将来の進路選択の幅を広げることにもつながります。

『芸術文化と社会をつなぐ』授業を計画します。絵画・彫刻、デザイン、映像メディアを授業の中心に位置づけ、理論と実技の両面から学びます。身近なものから題材を選び、観る、描く、つくるという基本的な造形活動のみならず、読む、書く、話す行為まで駆使して、芸術文化を社会に発信・活用する能力を育みます。

【授業を受けるにあたって】

『課題提出 100%が成績評価の前提』とします。美術では、課題が提出されないと評価できません。個人課題の場合、病気などで欠席した週の課題も、設定された採点日までに必ず提出してください。グループ課題は、メンバーで助け合いながら締め切りに間に合わせましょう。欠席が重なる場合は、グループ課題を個人で制作してもらうこととなります。完成作品以外の制作段階のデッサンやスケッチ、下絵等も評価の対象となるので、作品は諦めずに必ず提出するようにしてください。

『授業態度も成績評価の対象』です。授業中のスマートフォン、携帯電話、音楽プレイヤーの使用、飲食は禁止です。その他、注意・指導により禁止した行為を繰り返す場合、成績評価に反映させます。

【観点別評価の方法】

○知識・技能の習得（おおよそ 30%）

授業で学習した「造形的な視点を豊かにするための知識」と「創造的に表す技能」が、制作において反映できたを判断します。興味関心を持って意欲的に題材に取り組みましょう。

○思考力・判断力・表現力の育成（おおよそ 50%）

何に興味関心を持ち、どのように表現したかによって判断します。造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想して構想を練り主題を生み出しましょう。

○主体的に学習に取り組む態度（おおよそ 20%）

自分なりの工夫を重ね、意図に応じて対象を表現しようとする探究心によって判断します。創造的な表現と鑑賞の能力を深めましょう。グループ課題への積極的な取り組みも評価します。

【教材】

教科書、水彩絵の具、鉛筆（2B以上）。その他、画用紙、ケント紙、製図道具、工作道具などは学校で用意します。タブレット端末は、授業で使用するときは事前に伝えるので、必ず持参してください。